

## 皮膚科、形成・再建科

### I. 初期研修プログラム

皮膚科も、形成外科も希望に応じてどちらも研修できます。皮膚症状や膠原病を中心の研修や、形成外科中心の研修など、自由に選べます。研修医の自主性を尊重していますので、希望を伝えてもらおうと、満足度の高い研修ができます。気軽に、E-mail：[derma.prs.ku@gmail.com](mailto:derma.prs.ku@gmail.com)へ連絡下さい。

#### 皮膚科

皮膚の基本的知識及び皮膚疾患への診断への考え方、検査技術、治療法を身につけるためのプログラムです。外来においては、助教以上のスタッフと一緒に外来の問診、診察を行います。処置係として、卒後5年以上の皮膚科、形成外科の経験がある医員が指導し、切開や皮膚生検、良性腫瘍切除術など処置を行います。病棟においては卒後10年以上の経験がある皮膚科、形成外科専門医が病棟医長、副病棟医長、手術医長として指導し、卒後5年以上の医員が指導医として直接指導を行います。なお、指導医と共に担当医となりますが、基本的には複数の指導医とのグループ制であり、1つのグループは指導医1~2名、専門修練医1~2名、初期研修医1名程度とします。全身性強皮症やSLE、皮膚筋炎など膠原病の症例も多いのが特徴的です。慢性皮膚疾患のみならず、デブリドマンや植皮手術など外科的治療が必要な皮膚潰瘍や糖尿病性壊疽の症例も豊富です。また、生物学的製剤や治験薬を用いた新規治療も積極的に取り入れ、国内の皮膚科をリードしています。

#### 形成外科

形成外科では、機能はもとより形態解剖学的に正常（美形）にし、外見と機能の回復をはかる外科です。広い意味で外科学に属する分野ですが、特に、なんらかの原因で失われた組織や臓器を「造る外科（再建外科）」としてほかの外科と異なる特徴があります。

形成外科は特に他科との連携が強い科の一つです。当科は特に皮膚科との合同手術が多く、悪性腫瘍に関しては県内随一の症例数で、診断から治療・再建まで一貫して行っています。また、乳腺外科との乳房再建手術、整形外科手術での組織欠損に対する再建も増加傾向にあります。

手術においては、外科系医師であれば取得すべき真皮縫合をはじめとする形成外科的縫合を習得するとともに、術後の創傷の管理についての基本的考え方を学びます。余裕があれば皮弁術や植皮術、マイクロサージャリーなどについて学ぶことも可能です。

#### 到達目標

##### 皮膚科

1. 皮疹、皮膚症状を知り、理解できる。
2. 検査法：皮膚科の検査（皮膚描記法、硝子圧法、貼付試験、スクラッチ試験、MED測定、顕微鏡瀧微生物検査、細菌（真菌）培養、皮膚エコー、皮膚ドップラー、蛍光抗体法など）を理解し、実施できる。
3. 皮膚病理学：正常皮膚の構造や皮膚病理所見を理解できる。
4. 皮膚外科学：切開、皮膚生検、縫合を独力で適切に行うことができる。皮膚の良性腫瘍切除術、リンパ節生検を術者として行うことができる。皮膚移植術、皮弁形成術を助手として行うことができる。
5. レーザー治療法：レーザー治療の理論的裏付けを理解し、治療を行うことができる。
6. 光線療法：紫外線、赤外線などの電磁波の性格を理解し、皮膚疾患の治療を行うことができる。

1ヶ月の研修では、皮疹の正しい理解。正しい皮膚縫合法および、皮膚科検査を習得可能。2か月の研修

では、皮膚症状から検査を行い適切な診断が可能。さらに診断から治療まで一貫して経過を経験することができる。また真皮縫合を習得し皮膚生検や良性腫瘍切除術を術者として行える。3ヶ月の研修では、皮膚病理診断法や特殊な検査法を習得し、慢性皮膚疾患や重症例の治療に主体的に関与できる。悪性腫瘍切除術、植皮術、簡単な皮弁作成術までの手術術式の習得が可能である。

形成外科

1. 一般的な外科処置、形成外科的創処置の基本の習得
  - 手術器具の基本的な使い方がわかる
  - 局所麻酔、皮膚切開、縫合等の外科的基本手技
  - 縫合創、植皮創、採皮創、などの処置ができる
  - 褥瘡、潰瘍、熱傷等に対して症例ごとのドレッシングができる
2. 形成外科手術の基本手技習得
  - 小手術での切除・縫合が適切に出来る
  - 顔面、手足の外傷に対する初期治療が出来る
  - 練習用手術顕微鏡を用いたマイクロ練習
3. 整容・美容面を考慮した治療の習得・理解
4. チーム医療の習得
  - 医療スタッフとの円滑な人間関係の構築
  - 他科との連携の重要性を理解し、協調する

皮膚科、形成・再建科診療の実際

(ア) 診療：強皮症・膠原病外来、色素性疾患外来、ウイルス疾患外来、形成外科外来、皮膚外科外来、皮膚悪性リンパ腫外来、レーザー外来、皮膚悪性腫瘍外来、アトピー性皮膚炎外来、尋常性乾癬外来、脱毛症外来、皮膚血管炎外来、

(イ) 病棟診療体制：病棟医長1、副病棟医長1、手術医長1を中心に、卒後5年以上の医員がオーベルンとして指導する。指導医は基本的に皮膚科・形成外科専門医が当たる。

(ウ) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30		抄読会			
9:00		廻診			
10:00	外来診療 手術	入院カンファ、退院カンファ、病理組織検討会	外来診療	外来診療、手術	外来診療、手術
11:00					
12:00					
13:00					
14:00	病棟業務、手術	病棟業務	病棟業務	病棟業務、手術	病棟業務、手術
15:00					
16:00	病棟カンファ	研究報告会、薬剤説明会、医局会	病棟勉強会		
17:00	病理研修				

## 臨床研修スケジュール

### 月曜日

午前：手術または外来業務 夕：病棟カンファレンス；受け持ち患者についての病状確認および治療方針などの検討、皮膚病理研修

### 火曜日

午前：抄読会；8時30分から（希望者のみ）

：廻診；ベッドサイドでの入院患者検討

：廻診後カンファレンス；入院患者症例カンファレンス

：手術検討会；前週の手術のプレゼンテーションおよび検討。手術予定患者の手術式検討

：疾患検討会；興味ある疾患についてのプレゼンテーションおよび検討会

：皮膚病理検討会；前週に皮膚生検を行った患者さんについて、その病理所見および臨床についての検討、および皮膚病理研修

午後：薬剤説明会；薬剤の作用機序や投与法、副作用について、学習する。

：研究報告会；月に1度、研究テーマについて医局員を対象に発表する。（希望者のみ）

### 水曜日

午前：外来業務、レーザー外来または病棟業務

午後：病棟業務

夜：病棟勉強会（月に1回程度、希望者のみ）

### 木曜日

午前：外来業務、手術

午後：病棟業務、手術

夜：講演会（月に1-2回程度、希望者のみ）

### 金曜日

午前：外来業務、レーザー外来、手術

午後：病棟業務、手術

研修実施責任者 皮膚科、形成・再建科長：牧野貴充、増口信一

研修指導責任者 (正) 青井淳 (副) 梶原一亨

連絡先： 梶原一亨、青井淳  
熊本大学病院皮膚科・形成再建科  
電話 & FAX：096-373-5233

E-mail：derma.prs.ku@gmail.com

URL：http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/derm\_plas/index.html

形成・再建科連絡先： 伊方敏勝、増口信一  
E-mail：kumaplas@gmail.com

URL：https://www.facebook.com/kumaplas/